可視化情報学会鹿児島講演会の開催にあたって

可視化情報学会会長
筧 源亮

Message of the President at the Opening of Kagoshima Meeting

Motoaki Yano

可視化情報学会鹿児島講演会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

可視化情報学会の講演会には、夏に東京の国立教育会館で行われるものと、秋の地域講演会の二つがあります。今年度の秋の講演会は鹿児島大学稲盛会館において開催されることとなりました。

“流れの可視化”時代より本学会と九州との関係は深く、これは種子田先生を始めとして、多くの先生方が先端的な研究を九州の地で進めてこられたからであると思っております。今回のシンポジウムでは、特別講演”H-II ロケットの開発経過；祖父江照雄氏（宇宙開発事業団）”と65編（口頭発表50，ポスター発表15）の論文発表が行われます。本講演会が意義ある行事として、多くの参加者のもとに成功を収めることを期待しています。地域講演会がどのような経緯と主旨で始まったものか知りません。また浅沼先生からこのことについて、特に伺ったこともなかったように思います。しかし地域講演会に出席した場合には、隠れたメリットがあるように思われます。長崎の三菱重工業（株）で行われた講演会では、この時、はじめて、田古里先生（第7，8代会長）と模型飛行機の雑談をする機会を得ました。飛行機のこと以外にも、各種トレーサー等、可視化手法について、いろいろと教えていただきました。いまこのことをなつかしく思い出します。

このように、地域講演会では、それまであいさつ程度であった先生方と、時間に余裕のあるためか、親しく話す機会が得やすく、このことは、地域の特色ある研究活動の知識が得られることと合わせて、東京の場合とは異なったまた別の意義が存在するように思われます。ただこの講演会の開催を担当された地元の先生方には、大変なご迷惑をおかけしていることと思います。

今回の講演会の会場である鹿児島大学には、以前、海岸工学の講演会がありました時、私も伺ったことがあります。薩摩藩校、第七高等学校以来の学問、教育の伝統を引き継がれていることが、そのときの印象として残っております。また鹿児島市が桜島の噴煙の影響を想像以上に受けている都市であることを始めて知り、驚いたことを覚えております。

最後になりましたが、南国情緒あふれる鹿児島での可視化情報学会の秋の講演会の企画、開催に多大のご尽力を賜った実行委員会の野崎勉委員長（鹿児島大学教授）はじめ各顧問、委員、関係者の方々*に厚く御礼申し上げます。

*鹿児島講演会実行委員会：野崎勉（委員長；鹿児島大学），福原稔（幹事；鹿児島大学）
市川洋（鹿児島大），小山隆行（鹿児島大），菊川浩行（鹿児島大），
木下紀正（鹿児島大），桑木野重三（鹿児島高専），高橋保雄（旭化成），
鳥居修一（鹿児島大），中島正弘（鹿児島高専），
浜崎和則（鹿児島大），平野公孝（宮崎大），望月博昭（鹿児島大），
矢野利明（鹿児島大），李輝（鹿児島大）

鹿児島講演会顧問：明石光一郎（熊本工大），石田正弘（長崎大），井上雅弘（九州大），
鹿毛一之（大分大），金子賢二（佐賀大），種子田定俊（久留米工業大），
富田侑嗣（九州工大），並松正明（西日本技研），
馬場栄一（三菱重工業），速水洋（九州大），松尾一泰（九州大）